

すすめる会総会

日時：2001年6月30日（土）

午後1時30分

次第：開会あいさつ

弁護団からの報告

経過報告

収支報告

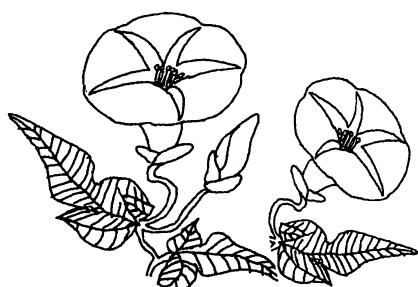
名称変更と今後の取り組みについて

質疑と意見交流

新旧事務局長あいさつ

弁護団、スタッフ紹介

閉会あいさつ



すすめる会の結成前後から今日までの活動の記録

1999. 9 第一勧銀、シーガイアへの支援中止を表明
12. 18 県議会、60億円の「シーガイア支援基金」を可決
2000. 1. 25 シーガイアに25億円を交付（総額は58億円）
1. 27 「すすめる会」結成総会
2. 18 宮崎県監査事務局に第一次住民監査請求の提出
(受理者1961名)
3. 14 第一次住民監査請求の意見陳述(陳述人8名)
4. 14 第一次住民監査請求の監査結果通知
5. 12 宮崎地方裁判所に第一次第1回住民訴訟の提訴
(受理者600名、受付番号:平成12年(行ウ)第二号)
宮崎地方裁判所に第一次第1回住民訴訟の提訴(訴訟参加)
(受理者9名、受付番号:平成12年(行ウ)第三号)
5. 19 宮崎県監査事務局に第二次住民監査請求の提出
(受理者1420名)
6. 14 第二次住民監査請求の意見陳述(陳述人6名)
7. 14 第二次住民監査請求の監査結果通知
8. 10 宮崎地方裁判所に第二次第1回住民訴訟の提訴(訴訟参加)
(受理者119名、受付番号:平成12年(行ウ)第五号)
8. 11 宮崎地方裁判所に第二次第1回住民訴訟の提訴(訴訟参加)
(受理者119名、受付番号:平成12年(行ウ)第六号)

その後、原告4名の辞退があり、最終的に住民訴訟原告団としては769名となった。

9. 4 住民訴訟第1回口頭弁論、終了後に第1回ミニ報告会
10. 26 学習会“シーガイアは、今、どうなっているの？”
11. 13 住民訴訟第2回口頭弁論、終了後に第2回ミニ報告会
2001. 1. 30 「すすめる会」発足1周年記念学習会
2. 15 未使用の33億円を県に返すよう次の4者に申し入れ
知事、県議会議長、監査委員、コンベンションビューロー
2. 19 住民訴訟第3回口頭弁論、終了後に第3回ミニ報告会
シーガイア、会社更正法適用申請、破綻

4. 16	未使用の33億円を県に返すよう次の3者に申し入れ 知事、県議会議長、監査委員 裁判進行協議
5. 1	事務局スタッフ、メーデー宮崎中央集会に参加、橋通りで宣伝行動
5. 11	破産管財人、リップルウッド・ホールディングスとシーガイアのスポンサー契約で基本合意
5. 14	住民訴訟第4回口頭弁論、終了後に第4回ミニ報告会
最近の動き	リップルウッド、オーシャンドームの固定資産税減免要請の動き 宮崎市、自然動物園を買取、買収額10億4千万円 シーガイア、一般更正債権の弁済額3億円以下に(0.08%、1000万円の債権者で弁済額8,282円)

《たたかいの成果》

裁判の争点、原告側の主張

- ①支援基金の目標はなぜ100億円なのか、県の出資額はなぜ60億円なのか
- ②1企業への支援に公益性はあるのか(公益性の6つの視点)
- ③良くなる可能性のない企業への資金の投入は無駄ではないか
- ④サミットのための倒産先送りではないのか
- ⑤そもそも当初から成り立つはずのない無謀な計画ではなかったのか(テーマパークの集客の法則と着工時の金利、宮銀の抵抗と怒り)
- ⑥抜本的再建計画はできていない
- ⑦サミットはシーガイアで開催しなくとも代替施設はある

被告側の主張

- ①公金投入により、抜本的再建策とスポンサーを探す時間的余裕ができた
- ②サミットがつつがなく開催でき、宮崎を世界に発信できた

運動の盛り上がりの成果

- ①58億円の内、25億円しか使わせなかつた
- ②宮崎市(30億円)、周辺町村(10億円)拠出の県のもくろみは破綻
- ③33億円を県財政に戻せという取り組みで残金の使途をしばっている

シーガイア破綻で無駄遣いをつたことがいよいよ明白になつた

収支報告書		
	収入の部	内容
募金等	1,436,544	募金と監査請求時の会費
資料販売収入	75,180	資料集の販売
合計	1,511,724	
	支出の部	
資料代	40,000	「シーガイアは、今、・・」の仕入れ代
通信費	514,862	切手代など
消耗品費	229,579	資料集発行のための洋紙代など
使用料	25,000	弁護士会館使用料（一回5,000円）
事務費	38,920	くすのきホール使用料など
設備費	25,489	FAXの設置
交通費	88,368	提訴準備時のスタッフの延岡等への出張費
弁護団活動費	100,000	弁護団が使う費用として予め渡しているお金
雑費	10,008	
合計	1,072,226	
残高	439,498	内訳：現金 29,282円 普通預金410,216円
		2000年1月～2001年5月14日

2000年1月～2000年8月23日までの収支		
収入	1,031,771	会費・募金・雑収入
支出	709,300	支出合計
①通信費	354,728	電話代、切手代
②消耗品費	136,194	用紙代、資料印刷費等
③事務局経費	218,378	印紙代、交通費等
残高	322,471	

2000年1月～2001年1月20日までの収支		
収入	1,398,826	収入合計
①会費・募金	1,357,626	
②雑収入	41,200	資料集販売
支出	977,997	支出合計
①通信費	460,033	電話代、切手代
②消耗品費	214,724	用紙代、資料印刷費等
③弁護団活動費	100,000	弁護団が使う費用として予め渡しているお金
④事務局費	138,201	印紙代、交通費等
⑤資料代	40,000	「シーガイアは、今、・・」の仕入れ代
⑥設備費	25,489	FAXの設置
残高	420,829	

今後の活動のイメージ

1. 県内各地での活動拠点の設置

県内各地で拠点となる個人を募り、県内でのネットワークを作ります。

- ① 募金、ニュースの配布、資料集の購読登録者への配布、回収などをしていただきます。
- ② 会員の声や企画の提案をしていただきます。
- ③ 財政の確立の中で点在する会員も100円で資料集の購読ができるようにします(但し振り込み手数料は負担していただく)。
- ④ それぞれの地域でネットワークを作りたい方は事務局にご連絡ください。

2. 財政の確立

監査請求から裁判の立ち上げまでは集中的にお金も掛かりましたが、今後は80万円程度があれば、年間のすすめる会の日常運営はできると思われます。

募金の予約登録者を募ります

→ **目標 1000 人**

県内全域で資料集の予約登録者を募り、配賦・回収網を確立し、事業収入の増加を図ります。

『「シーガイア支援基金」の 住民訴訟をすすめる会』への改称のご提案

1. 会の名称：「シーガイア支援基金」の住民訴訟をすすめる会
2. 申し合わせ
 - ① 目的：この会は「シーガイア支援基金」への公金投入を違法・
不当な支出にあたるとして住民訴訟を行っている原告、
弁護団とともに必要な活動や情報交換を行います。
 - ② 会員：この目的に賛同する人であれば誰でも参加できます。
 - ③ 運営スタッフ：この会に代表者と事務局をおき、運営します。
事務局は局長とスタッフで構成されます。また、地域毎
に連絡会を設けます。
 - ④ 財政：会の運営費用は募金と事業収入によってまかねいます。
 - ⑤ 事務所：会の事務所は宮崎市旭一丁目3-20「宮崎中央法律
事務所」におきます。



今後の年間収支予算について

① 収入の部

募金	700, 000
事業収入	100, 000
収入合計	800, 000

② 支出の部

通信費	150, 000
消耗品費	50, 000
使用料	20, 000
事務費	110, 000
交通費	150, 000
弁護団活動費	100, 000
地域活動費	100, 000
雑費	10, 000
予備費	110, 000
支出合計	800, 000

米国の投資会社「リップルウッド・ホールディングス」が、宮崎市の大型リゾート施設「シーガイア」を運営するフェニックスリゾートなどをグループ三社の事業を引き継ぐことになった。三千億円を超える債務を抱えて経営破たんした九州有数のリゾートはひどく破産という最悪の事態は免れだ。しかし、リップルウッドの今後の事業計画はまだ明らかではない。人員削減や設備の見直しなど手探りの状態での再出発になりそうだ。

「よろしくお願ひします」。

(宮崎支局長 佐谷史雄)

十四午後十一時半。シーガイア内の国際会議場「ワールド

コンベンションセンター・サミット」の一室。シーガイアの

保全管理人、佐藤安正弁護士

(現更生監督人)とリップル

のラブジョイ副社長ら関係者

は固い握手を交わした。

雇用維持など3条件

三社に絞り込んだスポンサー候補との二日間のマラソン交渉の末、最終的にリップルに決まったのは雇用維持や取引継続、施設の一体的運営維持の三条件を原則受け入れる姿勢を示したためだ。運営委員会は示したためだ。

佐藤氏は

「あくまでも

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

「お会いしないほうがいいでしょう」。シーガイアの売却交渉が難航していた三月中旬、メーンバンクである第一勧業銀行の役員が宮崎市の宮崎銀行本店を訪ねた。シーガイア破たん後の債権整理問題などについて説明するためだつた。しかし、宮銀の飛松建二頭取は面会を拒絶した。

「言いたいことは山ほどあるが、今さら言つてもどうなるものでもない」と飛松頭取は憤りを隠さない。シーガイアへの融資をめぐって東京の大手都銀と地元銀行との間の深い溝を見せつけた瞬間だった。

融資取り付けに奔走

「地元で融資團が結成できなければウチは（融資）出せない」。日本開発銀行（現日本政策投資銀行）はシーガイア・プロジェクト立ち上げの一九九二年当時、鹿児島支店を通じてシーガイアの佐藤の奥田正司頭取（当時＝商法百億円の融資が決まつたといふ）を通じて、

開銀四百五十億円、宮銀百億円など計一千億円にのぼった。管財人が債権關係の調査結果発表。第1回債権者集会。中旬・管財人とリップルが正式にスポンサ契約締結。リップルが再建計画発表。更生計画案提出期限。下旬・債権者集会。債務弁済計画について協議。資本を決議。地裁が更生手続きの終了を決定（見込み）。

違反で起訴）は「園のゾーン」。また宮銀は奥田氏の前任の大丈夫」と太鼓判を押して説得。最終的に飛松頭取が折れ、「どんでもない。リスクが高すぎて十億円が上限だ」と高利回りを差し出しきだ。宮崎邦次頭取（故人）がシーガイアの佐藤社長に差し出した。

銀の宮崎太陽銀行へは商工労働部長らが日参。年間数百億円に上る公金の取り扱い縮小をめぐらさせながら融資を引

いた。「最悪の場合を想定した融資保証書も宮銀決断の決意である信頼が揺るがざれた。我々も甘かった」と悔やむ。

「あの人（佐藤氏）が故郷の宮崎に帰ってきて勝手に始めた」と。破たん後の記者会見で、佐藤氏と二人三脚で協議した。シーガイア事業を推進してきた松形知事は「この言い放った。

ずさんな事業計画

杜撰（ずさん）な計画に杜撰な融資。結構だれも責任を

負う。シーガイアは事業計画自体もひどい。破たんすべくして崩壊とは言えなかつた。佐藤氏はしたとも言えるシーガイアだ。シーガイアの設計・デザインを文化功労者の芦原義信東大教授の設計事務所に委託した。日本にないゾーンを作つてほしか。

「ねえ、しなじはないがいいでしよう」。シーガイアの売入れた。

佐藤氏の意を受けた第一勧業銀行など他の金融機関を銀も宮銀など他の金融機関を口説いて回つた。資金調達計画は第一勧銀八百五十億円、

棟長社長や宮崎県に再三申し

入れた。

佐藤氏の意を受けた第一勧

業銀行など他の金融機関を

口説いて回つた。資金調達計

画は第一勧銀八百五十億円、

わざか六%に過ぎない。九

割を超える債権カットとなる

が、千四百億円を融資して、

第一勧銀は昨年九月期中間

決算ですでに引き当てて済ま

ていた。宮銀の飛松頭取は

「第一勧銀からは事前に何の

サインもなく、突然逃げられ

たようなものだ。何十年も金

融の世界で生きてきたが、金

融の命である信用が揺るがさ

れた。我々も甘かった」と悔

やむ。

「あの（佐藤氏）が故郷

の宮崎に帰ってきて勝手に始

めた」と。破たん後の記者

会見で、佐藤氏と二人三脚で

協議した。

シーガイア事業を推進してき

た松形知事は「この言い放つ

た。

しかし、できあがつたグラ

ンを見て佐藤氏は腰を抜かし

た。予定していなかつたショ

ッピングセンターや大型展示

場まである。「大きすぎない」。

あわてた佐藤氏と松形佑堯県

知事が計画の見直しを申し入

れたが、結局はあいまいな話

し合ひのまま、一部修正で妥

協した。

シーガイア

手探しの再出発

◇下◇



存続や業態変更が懸念される中核施設（手前はオーシャンドーム）

シーガイア譲渡手続の流れ

- 5月10日・シーガイア保全管理人とリップルウッド・ホールディングスが事業譲渡で基本合意
- 11日・宮崎地裁がシーガイアの更生手続き開始決定
- 17日・リップルがシーガイア現地調査開始
- 21日・関係人集会（宮崎市）
- 25日・債権届け出期限
- 6月4日・管財人が債権關係の調査結果発表。第1回債権者集会
- 中旬・管財人とリップルが正式にスポンサ契約締結
- 7月11日・更生計画案提出期限
- 下旬・債権者集会。債務弁済計画について協議。資本を決議
- 8月・地裁が更生手続きの終了を決定（見込み）

サービス＆ライフ

人材・金融・レジャー

一般更生債権弁済額

3億円以下に



四十二億円。共益債権分は、「今後変動あり」とされてくる。

人団は百七十一億円にならしていたが、動物園は三千四百十七億一千九百十六万円。同債権の弁済額が十億四千万円(消費税額分除く)と予定を四千円上回ったことで、弁済原資は百七十一億四千万円となる。

リラフル古アーヴ 旅風

だ。ナリー一派を中心とする田
米合団チームを編成、投資先
の選定を始めた。

ファンド規模12億ドル

一リップルウッド旋風か
吹き荒れている。ナイルス部品日本コロムビア、シガ
ニアー。米有力投資会社
の間に、日本企業を相次いで
品・日本コロムビア、シガ
ニアー。米有力投資会社
が四月初めに日産自動車から
ツプルウッド・ホールディングスはスイッチ類やセ
ニアード・ホールディングス株の四〇%を取得し
た後、初めての会合が開かれ
た。ナイルスの社外取締役に
品メーカー、ナイルス部品東
京・大田)の本社。リップル
が四月初めに日産自動車から
ツプルウッド・ホールディングス
ニアード・ホールディングス
ナイルスはスイッチ類やセ
ニアード・ホールディングス
ナイルスの経営不振に伴い九八年度に
は赤字に転落。だが、リップル
ルはナイルスを足場に製品や

企業に投資、価値高め売却

で株式売却益を得る。」しかし投資手法は構造改革が遅れた日本企業の救世主になるのか。攻勢を強めるリップルの実像を探る。

就任する予定のリチャード・ネリー氏は居並ぶ幹部に、机の上に「火を切った」。リップルは日本の事業に対する投資ファンド「Jインダストリアルペーズ」の組成を決めた。九年から、自動車部品会社の投資機会をつかがう。

・地域で補完関係にまつ
品を前一を賣收すれば、ま
る企業に生まれ変わ
シナリオを描く。

（茨城県潮
見）競争力のあ
る企業が再生
する。金利を下
げると、金融機
関が融資をし、
企業は再生する。
（茨城県潮
見）競争力のあ
る企業が再生
する。金利を下
げると、金融機
関が融資をし、
企業は再生する。

長は昨年末、出資を告げた。日本の日本企業向けの模は十二億ドル。三井海上火灾保険、など日本企業が四銀行、GEキャピタルリンクなど欧米六割を出資する。いはる

別のファンだ。日本法
リップルウッド・ジャパン
東京・千代田) では金融
、商社など出身の十二人
当事者が投資案件の発掘や
、交渉などにあたる。

経営再生、 一社企画 ブランド力 欧米流の経 験をもつて 構造改革、 投資で得た きい。会社 請した大型 「ガガイ」 スクスリゾ 取額は百八、

ローラン・ビアが持つ
やソフト資産と、
宮戦略を組み合わ

(複合企業) 神話が見直しを迫られていたところだ。それから二十年。日本の産業界は当時の米国に酷似していく。リップルのもとには系列解体や事業の選択と集中を急ぐ大企業からグループ会社買収の要請が相次ぐ。欧米のブランドが相次いで日本へ上陸を狙っており、旋風は收まりそうにない。

日本証券銀行
（現新生銀行）
大手町

弱さや海外展開の「ド」がありながら、
が阻害されている。系列に安住「」
業の関連会社など
る。日本法人の解散は
締役は「人昌削減」
建設なら投資しな
日本では化學、食
ども有力投資先だ

財務体制の遅れで成長の一の価格で買収される。円を投げたりソートは十分の点が共通する。これまでに見た大企業も対象になら売却までの期間を五十七年と想定。今後五年間で七、八件の投資を考えている。短期的見博代表取締役が唯一の再燃が唯一の再燃といふ。えた投資で一年率四〇%前後の高い利回りを狙う。

経営再生へ構造改革断行

ヨーロッパ、が持つ
ブランド力やソフト資産など
欧米流の経営戦略を組み合わせた。

(複合企業) 神話が見直しを迫られていたところだ。それから二十年。日本の産業界は当時の米国に酷似していく。リップルのもとには系列解体や事業の選択と集中を急ぐ大企業からグループ会社買収の要請が相次ぐ。欧米のブランドが相次いで日本へ上陸を狙っており、旋風は收まりそうにない。

リップルウッド旋風

⑤

CEOのコリンズ氏は「今は日本賣
いの好機」と語る



が普及していない
日本市場を開拓し
など有力金融機関に競り勝つ
た」(コリンズ氏)との独自戦略
は、人脈を駆使してキーパー
ソムに食い込むコリンズ氏の
したたかさがあった。

九五年にファン
ドを立ち上げた当
初から横原総・三
九年、出張先のニューヨーク
米国買収ファンドの資金調
達に成功したとも
いえる。

「話を聞いてほしい」。あ
る大手金融機関のトップは九
で突然コリンズ氏の訪問を受
けたがさわぎあつた。